

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100259		
法人名	有限会社 楽らく		
事業所名	グループホーム 楽らく		
所在地	三重県南牟婁郡紀宝町成川1076-5		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JivovsvoCd=2473100259-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成26年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「普通の暮らしとは何か」「個人のできることを生活の中に生かし、職員共々、楽しい過ごし方が出来るようにグループホーム楽らくの基本理念の元、日々の実践につとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三重県最南端の熊野川沿いの静かな住宅街の一角に、当事業所はある。近くには小学校があり、子供達の声も聞こえてきそうである。玄関に基本理念である「心…楽しく、気…楽に」が掲げられ、ベテランの管理者と明るい笑顔の職員達の支援のもと、利用者達は穏やかな生活を楽しんでいる様子である。町内会の行事に参加したり、事業所が行なう演奏会に地域の人達にも沢山参加してもらおう等、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心…楽しく、気…楽に」を基本理念とし、入居者の皆さんと職員が共に楽しみ、地域に密着したグループホーム作りに取り組んでいる。職員全員が認識している。	基本理念を玄関に掲げ、朝の申し送りやカンファレンス等、機会あるごとに基本理念に立ち返る意識を職員全員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の大掃除や氏神様のお祭りに参加し、又、近所の小学校の行事や市町主催の行事に職員も参加している。地域住民の散歩道や小学生の通学路になっていて来訪もある。	地元の祭りや小学校の発表会へ参加したり、事業所が行なう演奏会へ地域の人にも参加してもらっている。又、町内会の掃除等にも参加し、常に地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「楽らく」に於いて催される日本舞踊やコーラスグループ等のボランティア活動の発表の場を借りて地域住民の皆さんにグループホームの説明や認知症への理解や支援をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の内外活動の支援をお願いし、地区の緊急災害時等の一時的な場所提供の協力を約束している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。事業所の花見等、事業所の行事へも参加してもらいながら会議を開催し、意見を出してもらっている。	地域の老人会やボランティアにも運営推進委員になってもらう等、幅広い方々に参加してもらう中で、運営推進会議をより事業所運営やサービス向上に活かせるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各市町の地域包括センター主催の研修会への参加や介護保険の更新手続きなどで役場に出向き制度面等での指導して頂いている。	運営推進会議へ町担当職員に参加してもらい、日常的に情報交換を行いながら連携を深めるよう取り組んでいる。また、スプリンクラーの設置の際等に、援助・指導してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯対策以外は玄関に鍵はかけていない。朝、夕の申し送り時やカンファレンス等で取り上げ身体拘束防止の徹底を図っている。	玄関には施錠していない。日々のケアの中で、常に話し合いを行ないながら、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に言動や身体変化に注意し申し送り時に身体的、心理的、性的虐待や言葉での虐待がないか確認し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の直接担当している社会福祉協議会職員や司法書士に話を聞く機会がある。また町包括支援センター主催の講習会へ参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書や重要事項説明書内容を家族や代理人に説明し理解と共に契約している。改定の際は文章、説明にて了解(サイン)を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情申し立て相談窓口を明確に表示し外部第三者委員も設置している。家族の面会時に意見を聞く機会を設けている。	運営推進会議に家族の代表が参加している。玄関に意見箱を設置し、又、面会時には、家族より意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会あるごとに個別面談、月1回開催の主任、副主任会議を行い職員の意見や提案を聞き仕事に反映している。	月1回開催の主任・副主任会議やカンファレンスの際に、運営についても意見交換を行っている。代表者と職員の個別面談の際にも、職員の率直な意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する取り組みに対し、行事参加や研修会等の勤務外手当の支給や資格試験の為に旅費や宿泊費等の補助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修に勤務変更受付や、時間外手当などの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(社)三重県地域密着型サービス協議会の会員になり、各研修会に参加し意見交換や事例提供をして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族を交えた面談を行い、利用者の不安が少しでも軽減できるように馴染みの家具を持ち込むことや、慣れて頂けるまで家族に付き添っていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の利用での不安が少しでも軽減出来るように、面談や面会時に計画作成担当者や主任が立会い、十分に意見や要望を聞く機会をもうけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言葉掛けや、関わりに充分配慮し、他の入居者の皆さんとの仲を取り持つ対応をし、入居に向けての面談においても、他の施設サービスについても説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話にも気を付けながら尊敬と感謝の気持ちで、本人の望むことを出来るだけ把握するよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告や利用料請求時の手紙による近況報告を行っています、状況に応じて電話連絡や、話し合いの場を設けて問題解決に結び付けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に居心地の良い、明るい環境を提供できるように心がけ、出来るだけ自由に出かけられるように支援している。	馴染みの散髪屋へ行ったり、家族の協力により自宅を訪問したり、知人の訪問があったり、馴染みの関係が途切れない支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の中傷や誤解がトラブルに発展しないように、職員が見守りや仲裁に入り対応に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設入居で退去された方にも、お見舞いや面会で様子を見に出かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で一人ひとり出来る事、出来ない事、思い、希望などを職員で意見交換し本人の立場で考えるようにしている。	日頃のケアの中で一人ひとりの思いや意向を察するようになっている。そのため、話しかけを大切にしている。又、そうした思いや意向は、職員間で共有しケアに当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人をよく知っている人からの情報を集約し、入居後の新たな言葉からの意向も追加し生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に健康状態を把握し、申し送りやカンファレンスで職員同士、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に接する中で、意識的、無意識的に本人が求めていることなどを把握し、カンファレンスにより本人や家族の意見を取り入れて介護計画に役立てている。	本人や家族、職員と十分話し合いながら介護計画を作成している。介護計画は、状態変化があった時の随時見直しを行いながら、6ヶ月毎に定期的見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳を作成し記録している。台帳の閲覧場所を決め、必要な情報を介護職員が共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の家族の面会、宿泊希望についても柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民に、「楽らく」での行事や催し物に於いては参加を呼びかけている。又、町地域包括支援センター主催の地域資源マップ作成検討会に参加し、地域の一員としての意識を持って支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医のある方は引き続き受診支援を行なっている。又、医療機関ともなじみの関係を築き、医療、歯科の往診していただいている。	掛かりつけ医への受診は家族が行っているが、家族が対応出来ないときは、事業所が受診介助を行なっている。協力医には、往診をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と連携をとり日常の健康チェック、往診時の立会いや特変時の連絡相談等の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関である紀南病院の地域医療連携室と相談や情報交換を常に行ない、大学病院の医学研究に協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に家族や代理人に方針を説明し理解して頂いている。	看取りの指針を作成し、過去3名の看取りを行っている。本人・家族に事業所の方針を説明し、十分話し合いながら、可能な限り本人・家族の意向に添う終末期ケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の通報マニュアルを作成しており、担架や薬など常備しているが、自主防災訓練、地震避難訓練などを通じて初期対応の訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災などいろいろな状況を想定した消火避難訓練を年2～3回、地域の皆さんにも参加を呼びかけ実施している。	夜間想定防災訓練等、年2～3回訓練を行っている。また、スプリンクラーを設置すると共に、災害時における地域の人達への協力要請もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室への出入りは一言掛けて行い、人前であからさまに介護、介助をしないように心がけ、個人情報の記載されたケア記録等は事務所の鍵付きロッカーに保管している。	トイレ誘導の際の声かけ時には小声で話掛ける等、言葉掛けに注意している。職員間で気がつくことがあれば、その都度注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の皆さんの状態や個々の能力に合わせ本人の意思を優先し、選択して頂くように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた生活の流れに合わせ、その時々希望や体調により臨機応変に対応している。入居者の生活活動意欲を起こす支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望があり定期的に理髪店に出かけている。また、行きつけの美容師にホームに来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員と同じ食事を取り、又、個別の食事にも対応している。食事に時間が掛かっても出来るだけご自身で食べて頂いている。食後の片付けや食器の洗い物も利用者と共にしている。	旬のものやバイキング、又、外食を行い食事を楽しいものにするよう心掛けている。利用者の状態によって個別におかゆにしたり、誕生日にケーキを提供している。職員と利用者は一緒に食べ、利用者にも食事の片付け等出来ることは一緒に行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は介護日報に記入し職員で共有し、健康状態を把握している。入居者の体調に合わせて食事の形態を変え、食べやすいように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の皆さんの状態に合わせ、毎食後の歯磨きの習慣を支援している。協力歯科医院の協力をも得て口腔ケアについて医師の指示を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を介護職員が確認し、排尿排便間隔や量などの情報を把握し、失禁を減らしトイレでの排泄を支援している。	排泄表等により利用者の排泄パターン、習慣を把握しながらトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、自然な排便、排尿を目指し水分摂取、食材や調理の工夫、適度な運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に健康状態を観察しシャワー浴などに変更したり、本人の体調を把握し、入浴を無理強いせず、拒否したり暴力出る入居者様には家族の協力をお願いしている。	入浴日、時間は決めているが、希望があればいつでも入浴出来るようにしている。入浴拒否者には、対応職員を変えたり、家族の協力を得ながら、その人にあった入浴の勧め方をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度の運動や日光浴を促し、昼寝も時間を調節し夜間の睡眠に支障の無いように状況にあわせ合わせ一人ひとり対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院や薬局で頂いた、薬の説明書を個人ファイルに整理し職員が何時でも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人からの聞き取りで家事や農作業など入居者の皆さんの得意とする分野での楽しみを支援している。入居者が生けた生花もテーブルに飾り、明るい雰囲気を出す工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望者が多く、近くの神社仏閣に出かける機会が多い。梅、桜、藤、コスモス、紅葉など花の見物のドライブが好評である。又、新宮花火大会やイルミネーション見学など好評で季節感を味わっている。	散歩には、天気がよければ毎日行っている。季節により、桜や梅等の花見へのドライブ、又、花火見物やイルミネーションを見物等の外出支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭出納帳を作りお金を預かり、買い物時の外出には本人の希望を聞き買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の投函の支援や、家族にパスワードとIDを渡しインターネットカメラを利用した支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルに季節の花を飾る事で季節感を取り入れ、フローアとタタミ敷の部分を利用し多彩な行事を行っている。	採光もよく明るい居間(食堂)には、畳み敷きのところもあり、そこにはテレビや可愛い置物、壁には事業所行事での利用者の写真等が貼られ、親しみある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	八畳のタタミ敷の部分があり、コタツとテレビが置いてあり入居者が同士が思い思いに楽しむ空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やカーテン、照明器具など持ち込み居心地が良い部屋作りに配慮している。	テレビや使い慣れた筆筒や椅子、夫や家族の写真が飾られ、その人らしい居室となるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドアの模様を変えて、入居者の皆様はドアの模様を確認して入室しています。		